



メール連携オプション 管理者マニュアル

2026-06-11



1. 目次

- 1. 目次
- 2. サービス概要
- 3. 動作検証環境
 - 3.1. クラウドサービス・ソフトウェア
- 4. クリプト便メール連携オプション導入手順
 - 4.1. クリプト便の設定
 - 4.1.1. メール連携用デフォルトグループの設定
 - 4.1.2. メール連携用デフォルトユーザの作成
 - 4.1.3. パスワード再設定
 - 4.1.4. メール連携用グループの作成
 - 4.1.5. メール連携に関する設定について
 - 4.2. 利用開始設定
 - 4.2.1. 利用開始設定依頼
 - 4.2.2. 利用開始設定作業
 - 4.2.3. 利用開始設定完了
 - 4.3. DNSレコード設定
 - 4.3.1. DNSレコードの登録作業
 - 4.3.2. DNSレコードの登録完了のご連絡
 - 4.4. クラウドサービス・ソフトウェアの設定
 - 4.4.1. Exchange Onlineを利用している場合の設定例
 - 4.4.1.1. コネクタの作成
 - 4.4.1.2. トランスポートルールの作成（メール連携の動作確認用の設定）
 - 4.4.1.3. 添付ファイル容量の設定
 - 4.4.1.4. 添付ファイル容量の設定（Install-Module コマンドの実行がうまくいかない場合）

- 4.4.1.5. トランスポートルール作成 (エラー通知メール受信用ルール)
- 4.4.1.6. 宛先数の制限
- 4.4.1.7. リッチテキスト形式の利用制限
- 4.4.2. Google Workspaceを利用している場合の設定例
 - 4.4.2.1. ホストの作成
 - 4.4.2.2. 添付ファイルのコンプライアンスの設定 (メール連携の動作確認用の設定)
 - 4.4.2.3. 迷惑メールの除外設定
 - 4.4.2.4. 宛先数の制限
- 4.4.3. その他のメールサーバを利用している場合
- 4.5. 動作確認
- 4.6. 本番利用開始のための設定
 - 4.6.1. Exchange Onlineを利用している場合の設定例
 - 4.6.2. Google Workspaceを利用している場合の設定例
- 4.7. 導入作業完了
- 5. ご利用ガイド
 - 5.1. メール連携の仕組みについて
 - 5.1.1. ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化
 - 5.1.2. 承認機能
 - 5.2. 特定の条件において添付ファイル付きメールを直接送信する方法
 - 5.2.1. Exchange Onlineを利用している場合
 - 5.2.2. Google Workspaceを利用している場合
 - 5.3. クリプト便やメール連携GWでメンテナンスや障害が発生している場合の対応について
 - 5.3.1. Exchange Onlineを利用している場合
 - 5.3.2. Google Workspaceを利用している場合
 - 5.4. 送信の取消について
 - 5.4.1. 送信BOXから行う方法
 - 5.4.2. セクション管理者機能を利用する方法

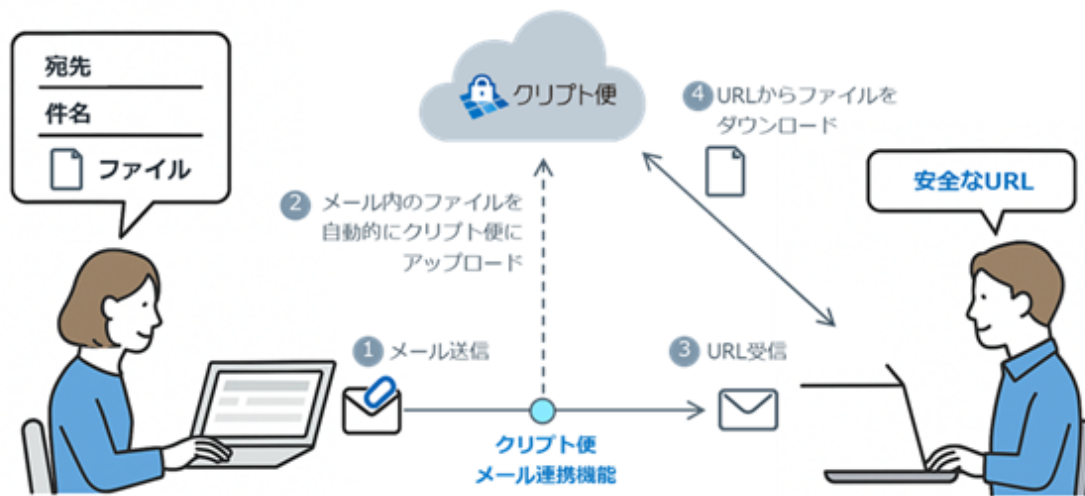
- 5.5. メール連携オプションの解約について

2. サービス概要

クリプト便メール連携オプション（以下、「本オプション」）を利用することで、送信者は普段通りメールにファイルを添付して送信するだけで、添付ファイルは自動的に分離され、クリプト便経由で相手に安全に送付することができます。

受信者は、添付ファイルなしのメールを受信し、メッセージを確認すると同時に、通知されたURLにアクセスしてクリプト便のサイトからダウンロードする形で添付ファイルを受領します。

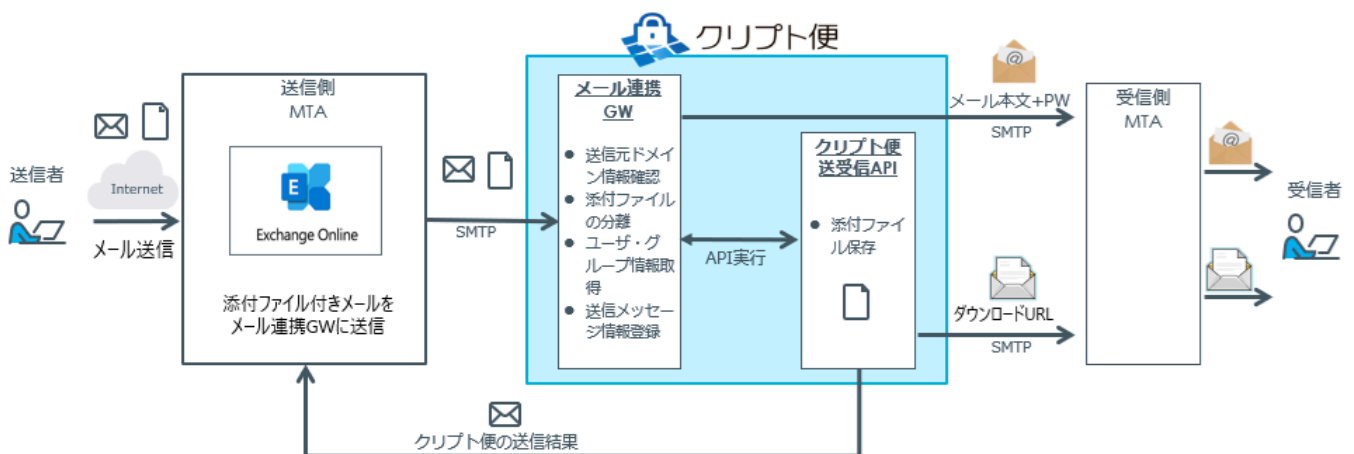
このように、ユーザは特別な操作を意識することなく、従来のメール送信の流れを変えずに、セキュリティ強化を実現できます（下図を参照）。



また、本オプションは、Microsoft Exchange Online、Google Workspaceなどのメール環境と連携が可能です。

ユーザが送信した添付ファイル付きメールは、メール連携ゲートウェイ（以下「メール連携GW」）で添付ファイルをメール本文から分離し、クリプト便の送受信APIを用いてクリプト便メッセージとして送信することで、セキュアなファイル送信を実現しています。

<Exchange Onlineを利用した場合のシステム構成例>



3. 動作検証環境

3.1. クラウドサービス・ソフトウェア

本オプションは、以下のクラウドサービス・ソフトウェアで動作検証を行っています（2026年6月時点）。

- Microsoft 365 (Exchange Online)
- Google Workspace

4. クリプト便メール連携オプション導入手順

本章では、本オプションの利用に必要な初期設定や導入手続きを記載しています。

初めてご利用になる方は、必ず本章をご参照のうえ、導入作業の実施をお願いいたします。

なお、以降の説明はすべて、クリプト便のセクション管理者としての初期設定が完了していることが前提となっております。

本オプションを利用開始するため、以下の流れで設定を行います。

1. クリプト便の設定
2. 利用開始設定依頼
3. DNSレコード設定
4. クラウドサービス・ソフトウェアの設定
5. 動作確認
6. 本番利用開始のための設定
7. 導入作業完了

4.1. クリプト便の設定

4.1.1. メール連携用デフォルトグループの設定

クリプト便のセクション管理者画面にログインし、本オプション用に以下の条件を満たすオープングループを作成します。

ここで作成したオープングループを「メール連携用デフォルトグループ」として扱います。
このグループで承認機能を有効化し、承認者を設定することは可能ですが、後述のメール連携用デフォルトユーザによって送信されたメッセージをすべて承認することになるため、ご注意ください。

- グループ種別： オープン
- メール連携： 利用する

<設定例>

4.1.2. メール連携用デフォルトユーザの作成

本オプション用に、以下の条件を満たすユーザを作成し、先ほど作成したメール連携用デフォルトグループに所属させます。

ここで作成したユーザを「メール連携用デフォルトユーザ」として扱います。
当該ユーザの用途に関しては、[ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化](#)をご確認ください。

- ユーザ種別： 社内ユーザ
- ユーザID： ランダムIDを利用 or メールアドレスを利用
- 接続元IPアドレス制限（共通IPアドレス制限 および 個別IPアドレス制限）： 3.44.128.44-3.44.128.47
※3.44.128.44-3.44.128.47 は、メール連携GWがクリプト便APIにアクセスする際のIPアドレスです。
このIPからのアクセスが可能となるように設定する必要があります。

その他の接続元IPアドレス制限については、お客様のご要件に合わせて適宜設定してください。

【ご参考】 [状況に合わせてアクセス制限を設定したい](#)

- ログイン方法： クリプト便IDでのログインも併用
※認証連携オプションをご利用の場合のみ設定
- ログインドメイン： ヒアリングシートに記載したログインドメインを選択
※専用ドメインオプションをご利用の場合のみ設定
- ログインロック： ログイン可能
- パスワード有効期限： 有効期限なし（無期限）

パスワード有効期限は原則として無期限に設定するようお願いします。

無期限を選択できない状態の場合は、機能設定 > パスワードポリシー > パスワード有効期間 から設定変更をお願いします。

- ワンタイムパスワード： 利用しない
- 所属グループ： 先ほど作成した「メール連携用デフォルトグループ」を選択

<設定例>

xxxxxセッション

クリプト便

マニュアル | 操作ヘルプ | お問い合わせ | 日本語

新規ユーザ作成

内容確認

ユーザ情報

ユーザ種別: 社内ユーザ

ユーザID: ランダムIDを利用

別名ID: 別名ID

氏名・会社名: _____

ユーザ名: メール連携オプション用ユーザ

ユーザ名(ふりがな): ユーザ名(ふりがな)

会社・組織名: 会社・組織名

会社・組織名(ふりがな): 会社・組織名(ふりがな)

アドレス・言語

メールアドレス: mail_linkage_opt@cryptobin-mail-test.com

追加メールアドレス: 追加メールアドレス

言語: 日本語

パスワード

パスワード:

パスワード(確認用):

ログインロック: ログイン可能

パスワード有効期限: 有効期限なし(無期限)

オプション設定

ワンタイムパスワード: 利用しない

(参考) 機能制限画面の設定: 利用停止

制限・機能設定

接続元IPアドレス制限

共通IPアドレス制限: 制限しない

共通接続許可IPアドレス: 3.44.128.44-3.44.128.47

個別IPアドレス制限: 制限する

個別接続許可IPアドレス: 3.44.128.44-3.44.128.47

(参考) あなたの接続元IPアドレス: 133.250.179.87

認証連携

ログイン方法: クリプト便IDでのログインも併用

(参考) 認証連携画面の設定(社内ユーザ): 利用開始

(参考) 認証連携画面の設定(社外ユーザ): 利用停止

専用ドメイン機能

ログインドメイン: cryptobin.jp(default)

登録通知

登録ID通知メール: ユーザに送信しない

所属グループ

グループ

メール連携オプション用グループ: オープン

設定不可

グループ追加 | 削除

内容確認

4.1.3. パスワード再設定

先ほど作成したユーザで初回ログインし、新しいパスワードを設定します。

クリプト便 日本語 | English | 中文

注意
初回ログイン時、もしくはパスワード有効期限が切れた時にはパスワード変更が必要です。
新しいパスワードを設定してください。

現在のパスワードを入力してください

新しいパスワードを入力してください

※ 8 - 16 文字で設定してください。
※ 英字/数字/記号を含む必要があります。
※ パスワードは使いまわさず、独自のものを設定してください。

NRI SecureTechnologies, Ltd.

4.1.4. メール連携用グループの作成

必要に応じて、メール連携用デフォルトグループ以外のグループの作成や、所属ユーザの設定、承認設定、監査設定の実施をお願いします。

参考：[セクション管理者マニュアル>ユーザ・グループ>グループ設定](#)

クリプト便におけるユーザIDの登録状況やグループへの所属状況によって処理パターンが変化します。

詳細は、[ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化](#)をご確認ください。

なお、メール連携用グループに所属するユーザの「ログインドメイン」の設定は、ヒアリングシートで事前申告したドメインを選択する必要があります。

4.1.5. メール連携に関する設定について

- メール連携用デフォルトグループの設定変更について
グループID、メール連携用デフォルトユーザの所属を[利用開始設定の後](#)に変更することはできません。
やむを得ず設定を変更する必要がある場合は、クリプト便ヘルプデスクへご連絡ください。
- メール連携用デフォルトユーザの設定変更について
ユーザのログインパスワードを[利用開始設定の後](#)に変更することはできません。
やむを得ず設定を変更する必要がある場合は、クリプト便ヘルプデスクへご連絡ください。

- 専用ドメインを利用しており、かつ2ドメイン利用している場合について
メール連携を行うすべてのユーザのログインドメインは、必ずヒアリングシートで事前申告したドメインを選択してください。
異なるドメインが設定されている場合、メール連携オプションは正常に動作しません。

4.2. 利用開始設定

4.2.1. 利用開始設定依頼

本オプションのお申込み時にお渡しした「ヒアリングシート」の「お客様記入欄」に以下の情報を記載し、クリプト便等の安全な方法にて、クリプト便ヘルプデスク宛にお送りください。

お客様からいただいた内容をもとに、弊社にて利用開始設定を行います。

- メール連携用デフォルトグループのグループID ※[メール連携用デフォルトグループの設定](#)で設定したもの
- メール連携用デフォルトユーザのユーザID ※[メール連携用デフォルトユーザの作成](#)で設定したもの
- メール連携用デフォルトユーザのパスワード ※[パスワード再設定](#)で設定したもの

4.2.2. 利用開始設定作業

お客様から受領した「ヒアリングシート」をもとに、弊社にて本オプションの利用開始に必要な設定作業を実施します。

4.2.3. 利用開始設定完了

利用開始設定が完了次第、クリプト便ヘルプデスクからお客様にご連絡いたします。

この際、「ヒアリングシート」の「NRIセキュア記入欄」を記入した状態でご返却いたしますので、連絡が届き次第、次の「DNSレコード設定」の実施をお願いします。

4.3. DNSレコード設定

メールのなりすまし防止と信頼性向上のため、送信ドメイン認証（SPF、DKIM）を行います。

4.3.1. DNSレコードの登録作業

「ヒアリングシート」の「NRIセキュア記入欄」を参照のうえ、お客様が管理するドメインの権威DNSサーバへ登録をお願いします。

<設定例>

設定箇所	設定例
MXレコード	<お客様指定のドメイン>. IN MX 10 feedback-smtp.ap-northeast-1.amazonses.com.
TXTレコード	<お客様指定のドメイン>. IN TXT "v=spf1 include:amazonses.com ~all"
DKIMレコード①	xxxxx._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード②	yyyyy._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード③	zzzzz._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.

「DMARC」のご利用については任意となりますので、必要に応じて差出人メールアドレス（ヘッダ FROM）のドメインに対応する権威DNSサーバに設定をお願いいたします。

4.3.2. DNSレコードの登録完了のご連絡

DNS設定が完了次第、クリプト便ヘルプデスクにご連絡ください。

弊社にてDNS設定の確認およびオプション利用開始に伴う作業を行います。

弊社作業が完了次第、クリプト便ヘルプデスクからお客様に「クラウドサービス・ソフトウェアの設定」の実施依頼を行います。

なお、弊社作業に関してはDNS設定の反映待ちの時間も含まれるため、5営業日程度かかる場合がございます。

4.4. クラウドサービス・ソフトウェアの設定

本手順は「DNSレコード設定」がすべて完了次第、実施をお願いいたします。

クリプト便メール連携オプションを利用する際の設定例をご紹介します。

お客様の環境により設定方法が異なる場合がありますが、以下の設定例を参考に設定作業を実施してください。

4.4.1. Exchange Onlineを利用している場合の設定例

Exchange Onlineをご利用の場合、以下の設定を実施することで本オプションの利用が可能となります。

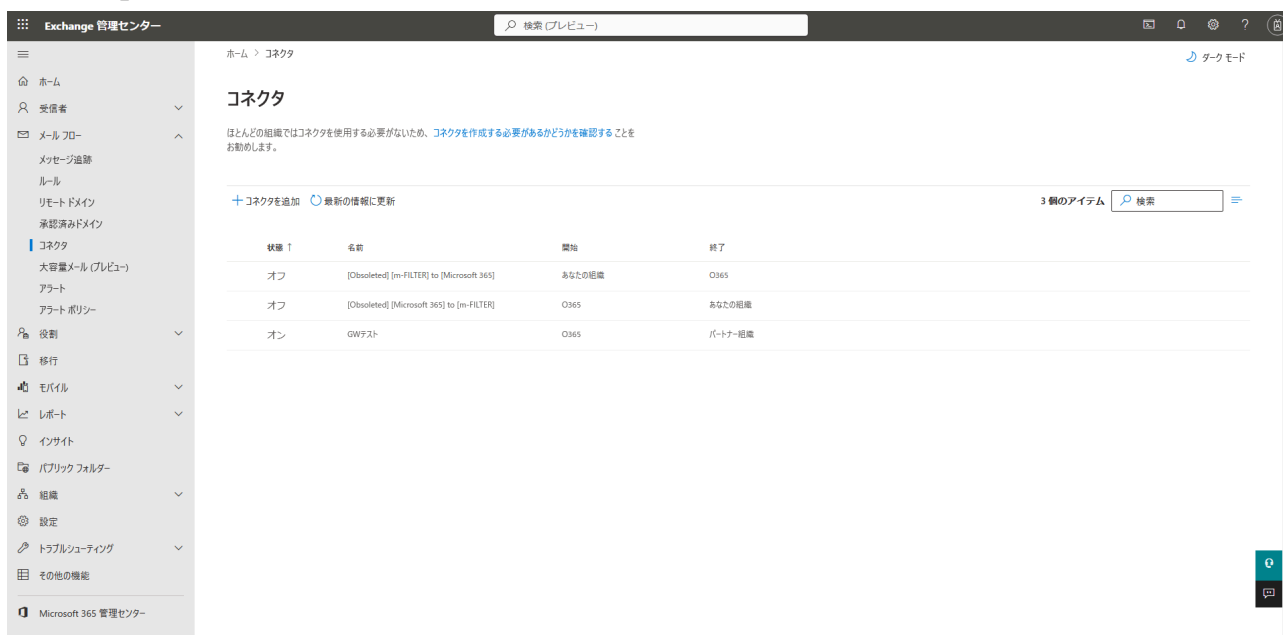
- コネクタの作成
メール連携GWへ接続するためのコネクタを作成します。
- トランスポートルール作成（メール連携の動作確認用の設定）
メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するためのトランスポートルールを設定します。
- 添付ファイル容量の設定
添付ファイルの容量が1バイト以上の場合に転送するよう設定します。
- トランスポートルール作成（エラー通知メール受信用ルール）
メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐためのトランスポートルールを設定・有効化します。
- 宛先数の制限（任意）
送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。
- リッチテキスト形式の利用制限（任意）
リッチテキスト形式のメール送信について利用制限を行います。

後述の手順はあくまで設定例となりますので、お客様のExchange Onlineのご利用状況により設定内容が異なる場合がございます。
また、本オプションの動作に影響が出ない範囲で任意の設定を実施していただくことも可能です。

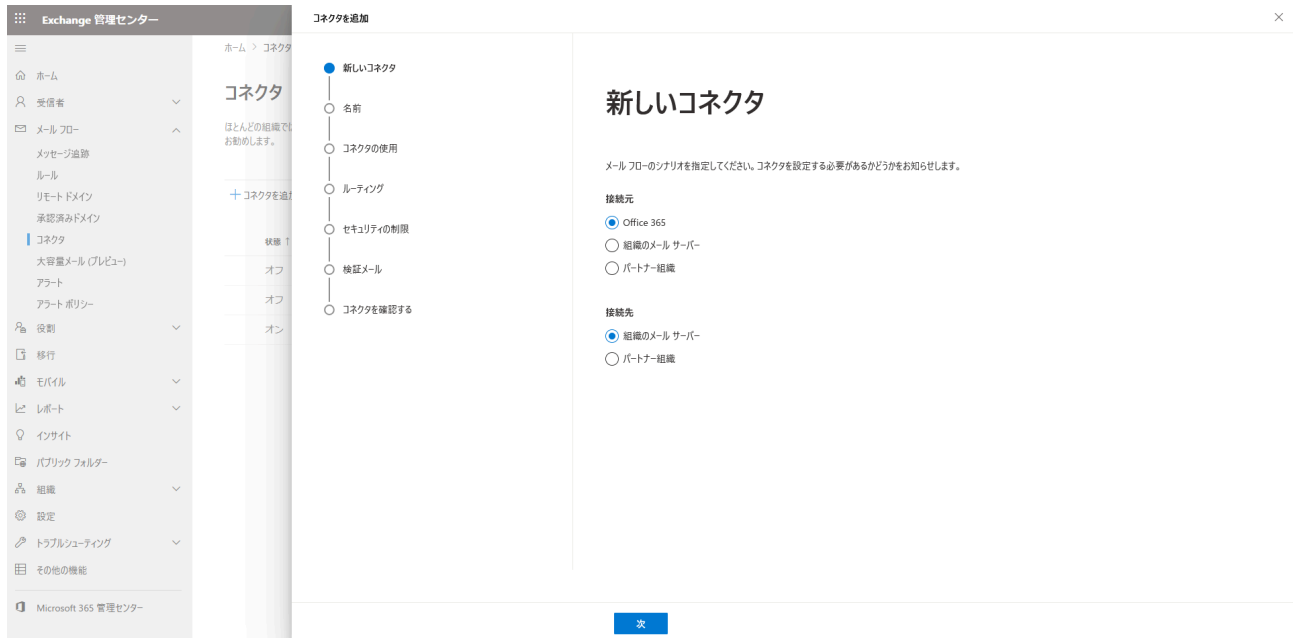
4.4.1.1. コネクタの作成

メール連携GWへ接続するためのコネクタを作成します。

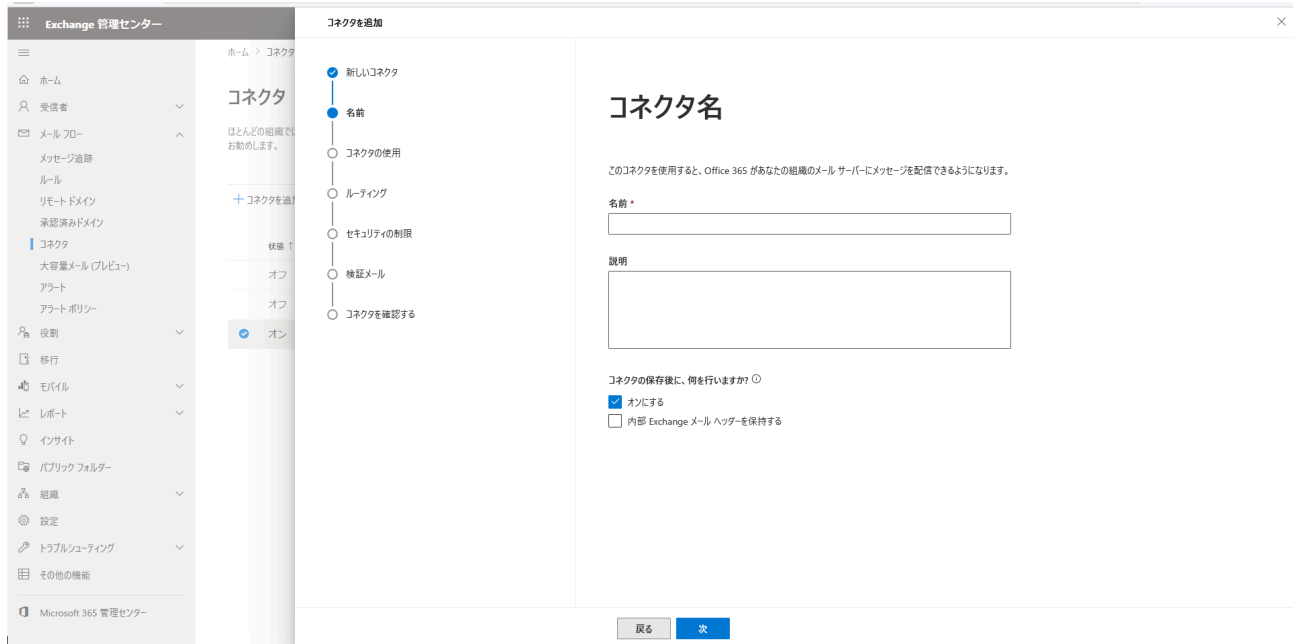
1. 下図のようにExchange管理センターのサイドバーから、**メールフロー** > **コネクタ**に遷移し、「コネクタを追加」ボタンを押します。



2. 「新しいコネクタ」画面で、下図のように接続元を「Office365」、接続先を「組織のメールサーバ」を選択し、「次」ボタンを押します。



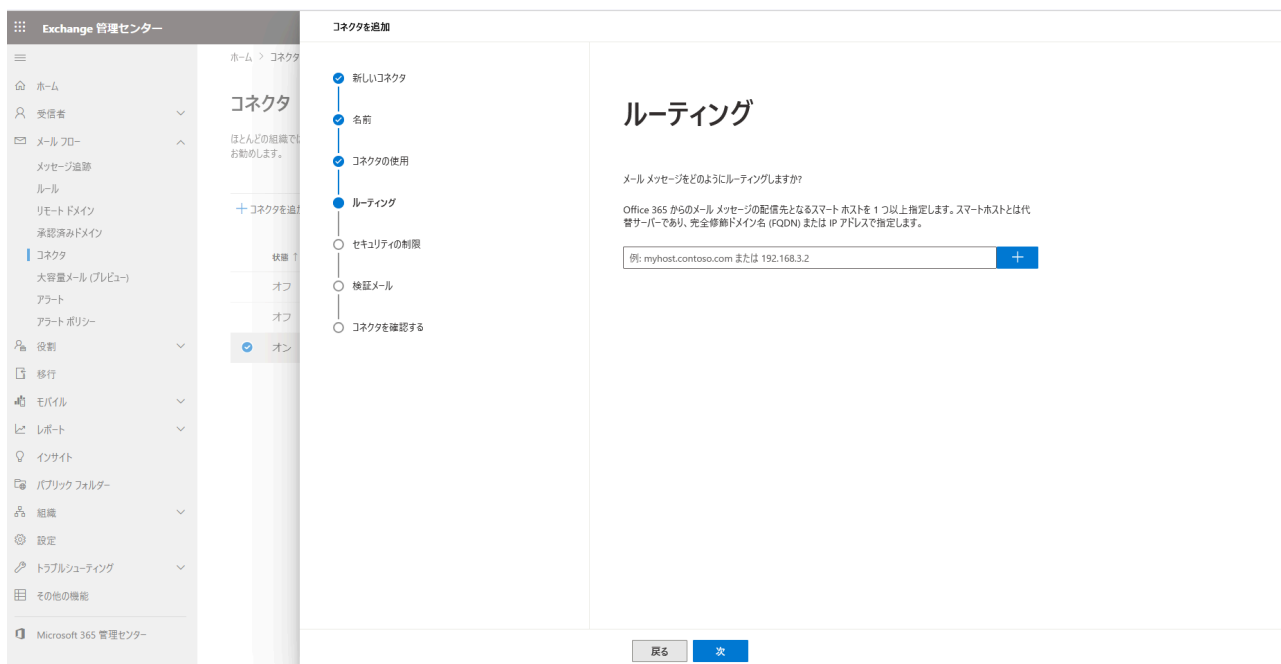
3. 「コネクタ名」画面で、名前に任意の名前を入力し、下図のように「オンにする」を選択し、「次」ボタンを押します。



4. 「コネクタの使用」画面で、下図のように「メッセージをこのコネクタにリダイレクトするトランスポートルールが設定されている場合のみ」を選択し、「次」ボタンを押します。



5. 「ルーティング」画面で、「prod.cryptobin-gw.com」を入力し、「+」ボタンを押し、「次」ボタンを押します。

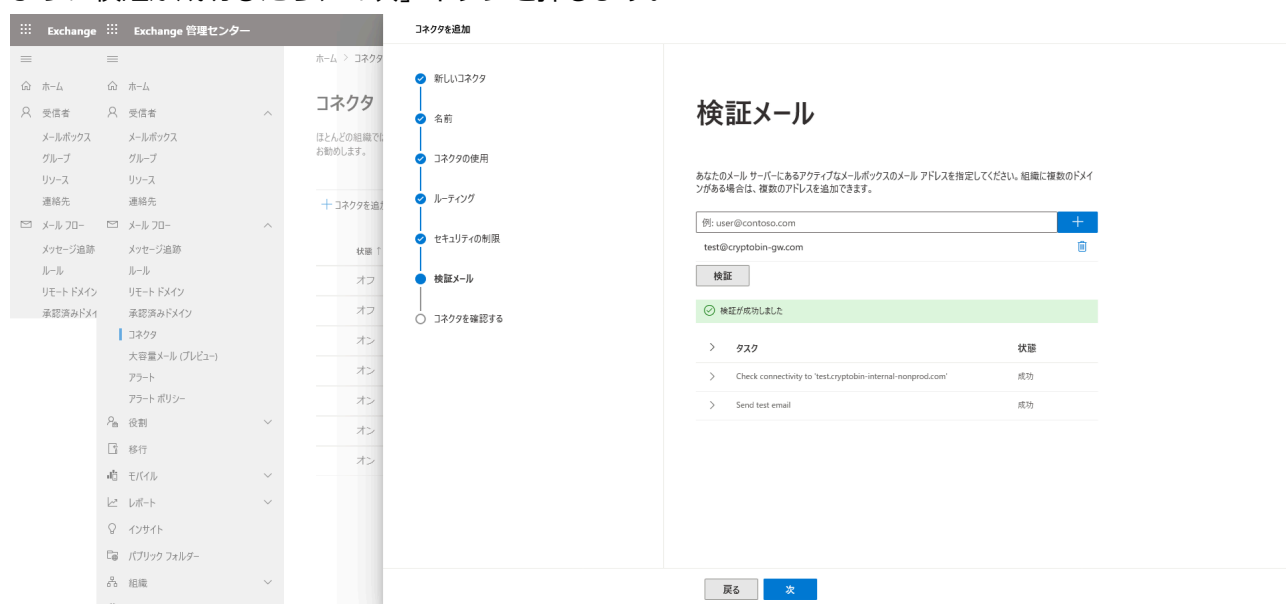


6. 「セキュリティの制限」画面で、下図のように「常にトランスポート層セキュリティ (TLS) を使って接続をセキュリティで保護する(推奨)」と、「任意のデジタル証明書(これには自己署名証明書も含まれ

ます)」を選択し、「次」ボタンを押します。



7. 「検証メール」画面で、「test@cryptobin-gw.com」を入力し、「検証」ボタンを押します。下図のように検証が成功したら、「次」ボタンを押します。



8. 下図のように確認画面が表示されましたら、「コネクタを作成」ボタンを押します。これでコネクタの作成は完了です。



4.4.1.2. トランスポートルールの作成（メール連携の動作確認用の設定）

メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するためのトランスポートルールを設定します。

1. 下図のようにExchange管理センターのサイドバーから、**メールフロー** > **ルール**に遷移し、**ルールの追加** > **新しいルールの作成**を選択します。

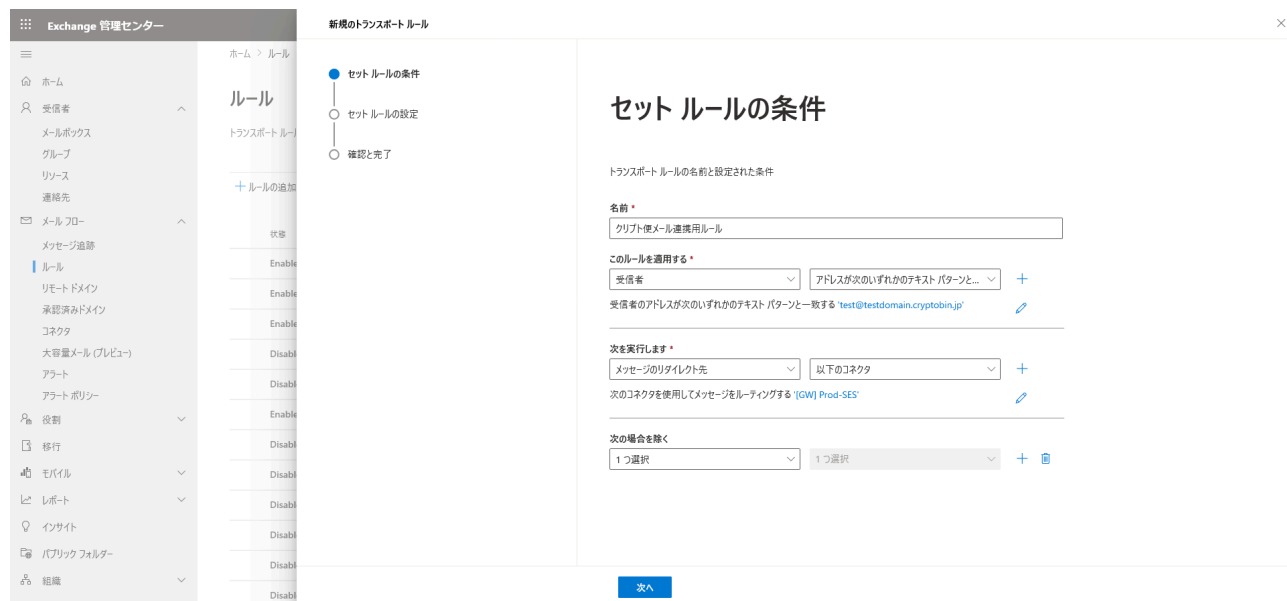


2. 「セトルールの条件」画面で、下図のように各項目を入力し、「次へ」ボタンを押します。トランスポートルールの名前は、任意の名前を入力してください。

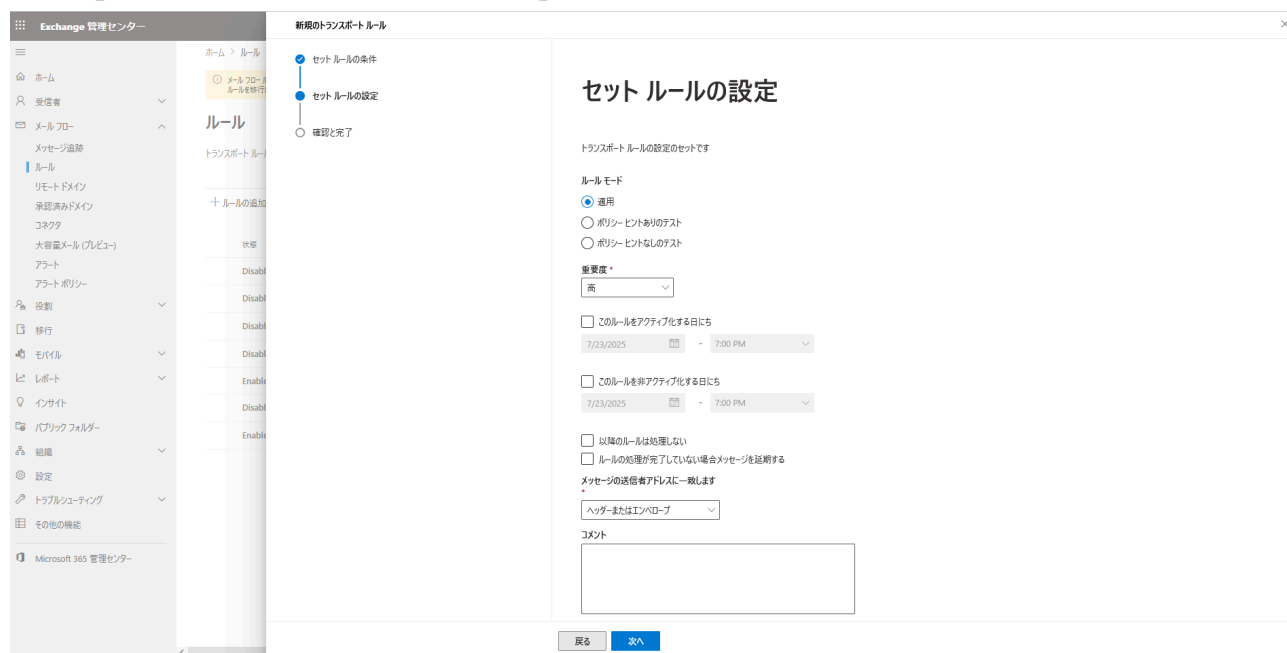
- このルールを適用する： 「受信者」、「アドレスが次のいずれかのテキストパターンと一致する」を選択し、任意のメールアドレス（※）を入力します。

※動作確認に利用する宛先メールアドレスを入力します。なお、本設定はあくまで一例ですので、お客様のご判断で任意の条件に変更いただくことも可能です。

- 次を実行します： 「メッセージのリダイレクト先」、「以下のコネクタ」から先ほど作成したコネクタを選択



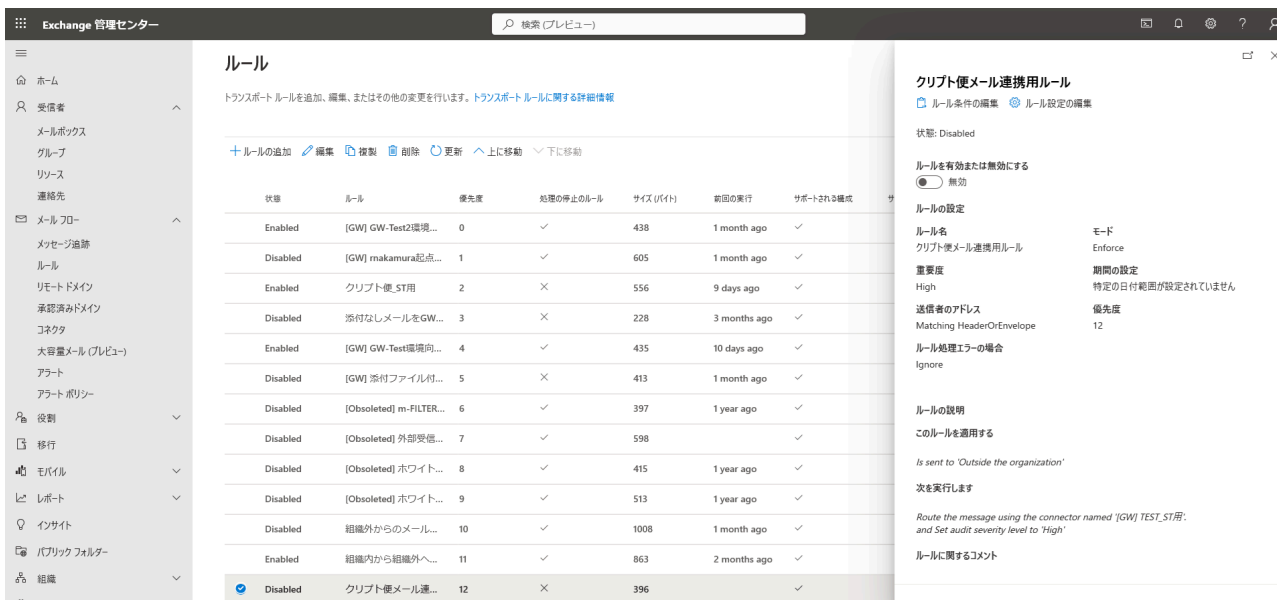
- 「セトルールの設定」画面で、下図のように各種値を入力し、「次へ」ボタンを押します。このとき、「ルールモード」は「適用」、「重要度」は「高」、「メッセージの送信者アドレスに一致します」は「ヘッダーまたはエンベロープ」を選択します。



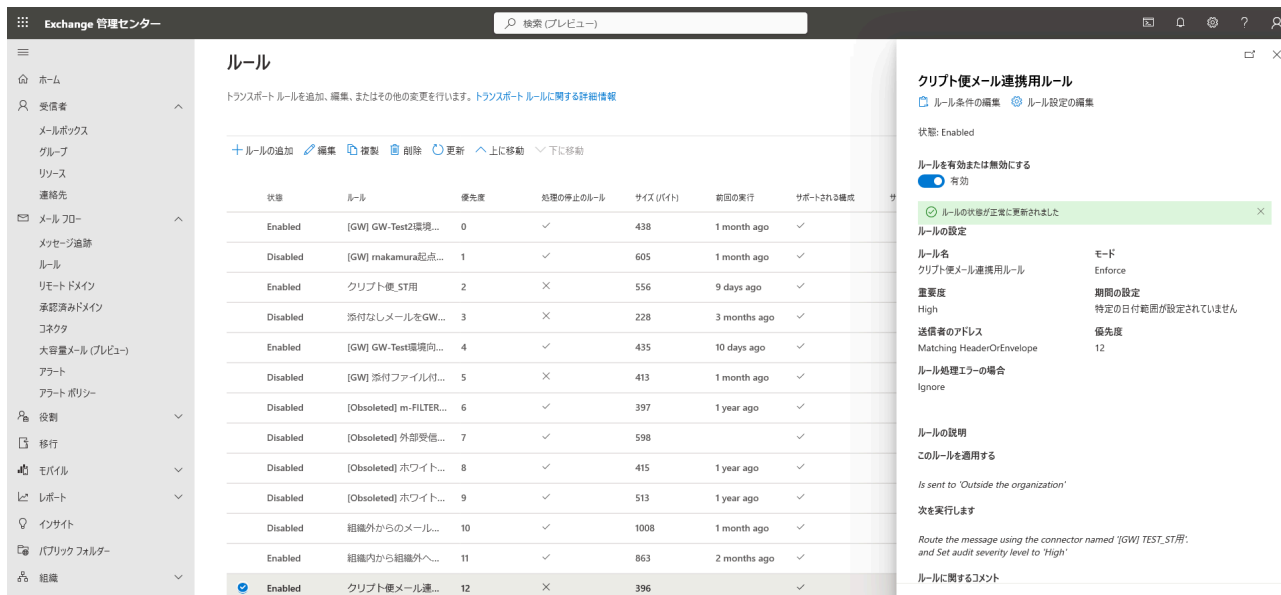
2. 下図のように確認画面が表示されたら、「完了」ボタンを押します。これでルールを作成は完了です。



3. 作成したルールを確認し、状態がDisabledになっていることを確認します。



4. 作成したルールを選択し、有効にします。下図のように状態がEnabledになっていればルールは有効になっています。



4.4.1.3. 添付ファイル容量の設定

添付ファイルの容量が **1B(1バイト)** 以上の場合に転送するよう設定します。

1. PowerShellを管理者として実行

スタートメニュー ボタン（画面左下またはタスクバーのWindowsロゴ）をクリックし、検索欄に powershell と入力します。

「Windows PowerShell」が表示されたら、アイコンを右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。

2. 権限を設定

現在ログイン中のユーザ（CurrentUser）のPowerShell実行ポリシーを「RemoteSigned」に設定します。

```
Set-ExecutionPolicy -ExecutionPolicy RemoteSigned -Scope CurrentUser
```

3. モジュールをインストール

Exchange Onlineを管理するためのPowerShellモジュール（ExchangeOnlineManagement）をPowerShellギャラリーからインストールします。

```
Install-Module -Name ExchangeOnlineManagement
```

ネットワーク環境の都合などにより、Install-Module コマンドの実行がうまくいかない場合は添付ファイル容量の設定（Install-Module コマンドの実行がうまくいかない場合）をお試しください。

4. モジュールをインポート

インストールした ExchangeOnlineManagementモジュールを、PowerShellに読み込んで使える状態にします。

```
Import-Module ExchangeOnlineManagement
```

5. Exchange Onlineに接続

以下のコマンド実行後にダイアログが立ち上がるので、ID/パスワード等を入力し、Exchange Onlineにログインします。

```
Connect-ExchangeOnline -UserPrincipalName "管理者メールアドレス"
```

6. トランスポートルールを変更

添付ファイルの容量が**1B**以上の場合に転送するよう設定します。

```
Set-TransportRule -Identity "作成したトランスポートルール名" -AttachmentSizeOver "1"
```

4.4.1.4. 添付ファイル容量の設定（Install-Module コマンドの実行がうまくいかない場合）

以下の手順はネットワーク環境の都合などにより、添付ファイル容量の設定における、Install-Module コマンドの実行がうまくいかない場合のみ、お試しください。

1. ExchangeOnlineManagementのダウンロード

PowerShell Gallery: ExchangeOnlineManagement にアクセスし、ExchangeOnlineManagementのパッケージを取得します。

アクセス先：

<https://www.powershellgallery.com/packages/ExchangeOnlineManagement/3.9.0>

※[Manual Download]より、[Download the raw nupkg file]ボタンをクリックします。

2. 圧縮ファイルの展開

ExchangeOnlineManagement.x.x.x.nupkgを取得したら、ファイル拡張子を「.zip」に変更し、右クリック>すべて展開で解凍します。

3. フォルダへの展開

C:\Users\<ユーザー名>\Documents\WindowsPowerShell\Modules\ に展開したフォルダを

「ExchangeOnlineManagement」にリネームして配置します。

なお、Modulesフォルダがない場合は新規に作成します。

※以下の状態になっていることを確認してください。

C:\Users\<ユーザー名>\Documents\WindowsPowerShell\Modules\ExchangeOnlineManagement

名前	更新日時	種類
_rels	2025/10/07 2:41	ファイル フォルダー
en-US	2025/10/07 2:41	ファイル フォルダー
netCore	2025/10/07 2:41	ファイル フォルダー
netFramework	2025/10/07 2:41	ファイル フォルダー
package	2025/10/07 2:41	ファイル フォルダー
[Content_Types].xml	2025/10/07 2:38	Microsoft Edge HTML D...
ExchangeOnlineManagement.nuspec	2025/10/07 2:37	NUSPEC ファイル
ExchangeOnlineManagement.psd1	2025/10/07 2:38	Windows PowerShell デ...
license.txt	2025/10/07 2:38	Text Document

4. 権限設定

PowerShellで以下のコマンドを実行します。

```
Get-ChildItem "C:\Users\<ユーザー名>
>\Documents\WindowsPowerShell\Modules\ExchangeOnlineManagement\netFramework"
*.d11 | Unblock-File
```

5. ExchangeOnlineManagementの設定完了

以上で設定は完了です。4.4.1.3. [添付ファイル容量の設定](#)に戻り、続きの手順を実施してください。

4.4.1.5. トランスポートルールの作成（エラー通知メール受信用ルール）

メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐためのトランスポートルールを設定・有効化します。

1. 下図のようにExchange管理センターのサイドバーから、[メールフロー](#) > [ルール](#)に遷移し、[ルールの追加](#) > [新しいルールの作成](#)を選択します。

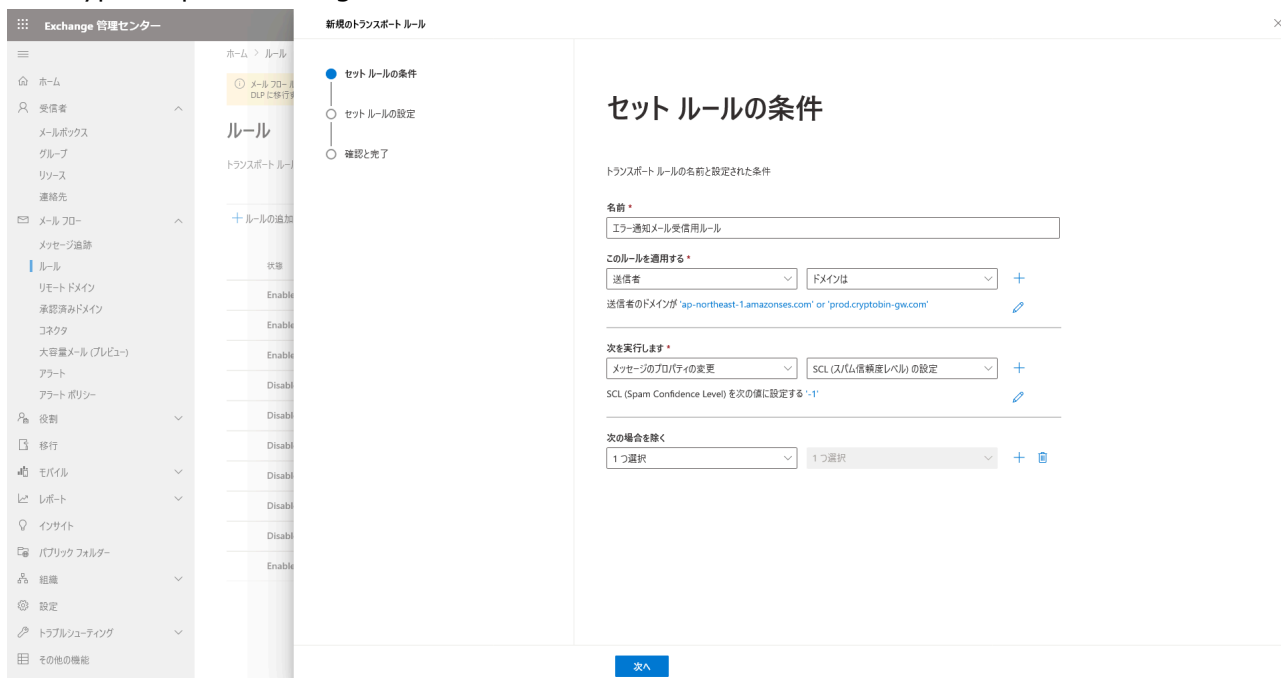


2. 「セトルールの条件」画面で、下図のように各項目を入力し、「次へ」ボタンを押します。トランスポートルールの名前は、任意の名前を入力してください。

このとき、「このルールを適用する」の設定は「送信者」、「ドメインは」を選択し、「ap-northeast-1.amazonses.com」と「prod.cryptobin-gw.com」を入力・追加します。

「次を実行します」の設定は「メッセージプロパティの変更」、「SCL（スパム信頼度レベル）の設定」を選択し、「Bypass spam filtering」を選択（※）してください。

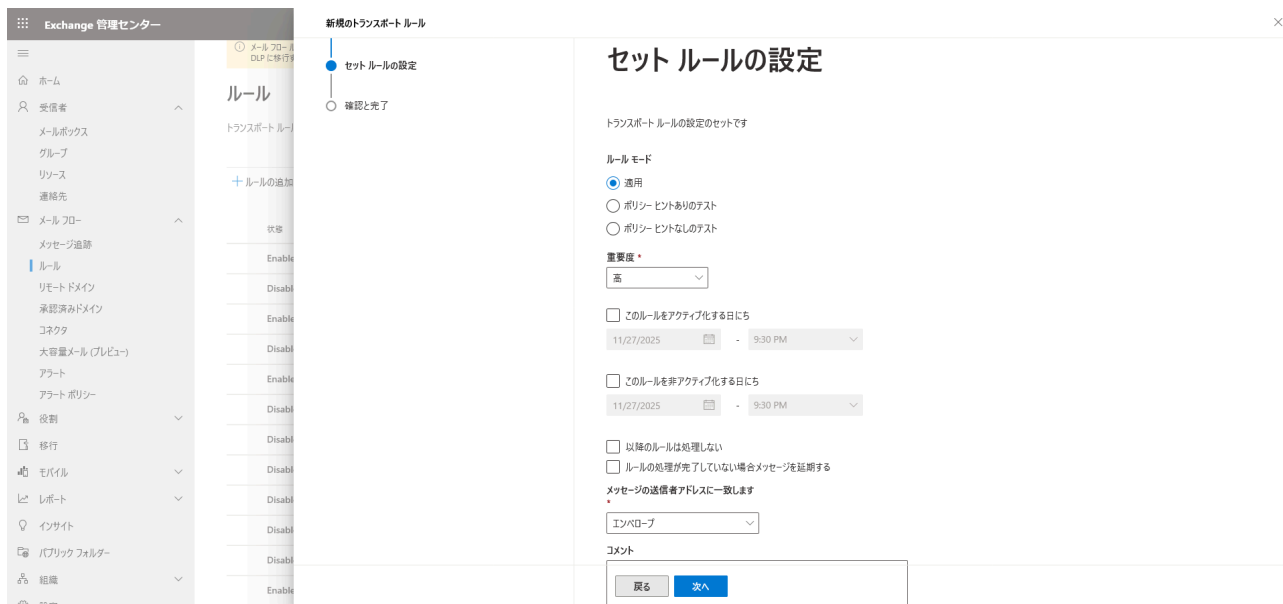
※「Bypass spam filtering」を選択すると、「-1」が設定されます。



3. 「セトルールの設定」画面で、下図のように各種値を入力し、「次へ」ボタンを押します。

このとき、「ルールモード」は「適用」、「重要度」は「高」、「メッセージの送信者アドレスに一致

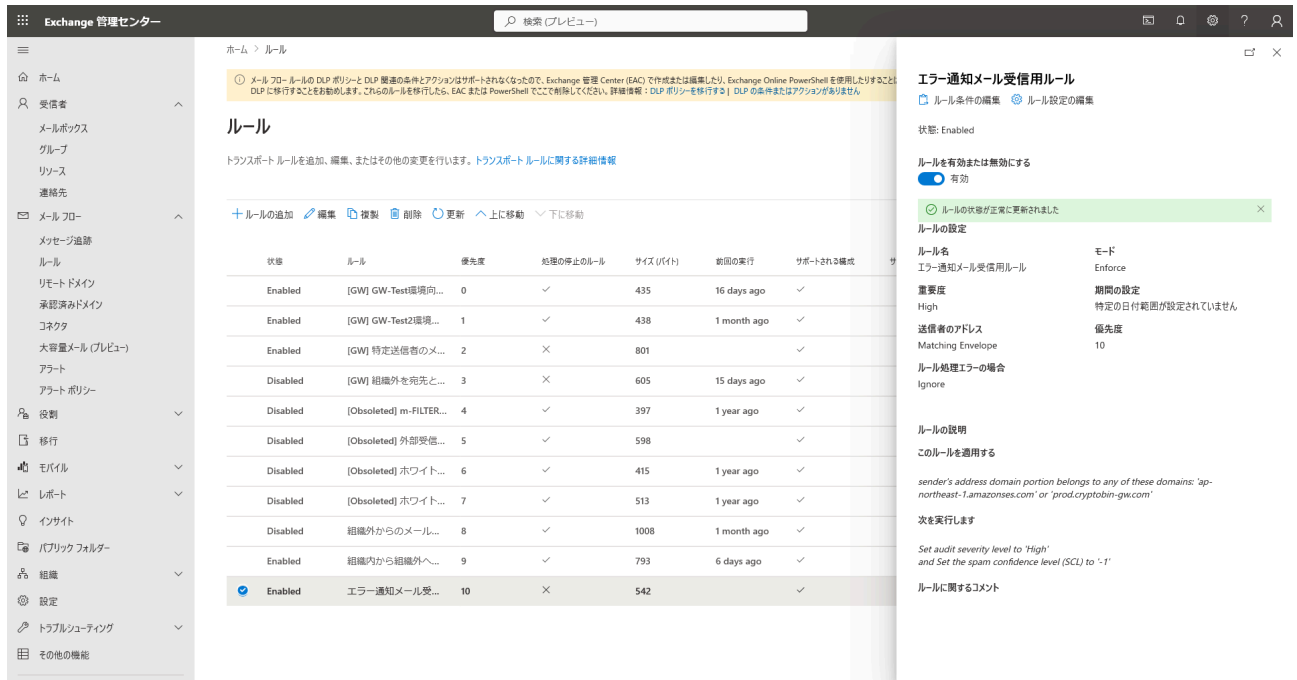
します」は「エンベロープ」を選択します。



4. 下図のように確認画面が表示されましたら「完了」ボタンを押すことで、ルールが作成されます。



5. 作成したルールを選択し、有効にします。下図のように状態がEnabledになっていればルールは有効になっています。



4.4.1.6. 宛先数の制限

本手順を実施した場合、全ユーザのメールボックスに設定が適用されますのでご注意ください。

送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。本設定は必須ではございませんが、To・Cc・Bccの宛先数の合計が50件を超えるメールが送信された場合、本オプションによるクリプト便への連携処理が失敗する（※）ため、本設定の実施を推奨いたします。なお、この設定はExchange Onlineの全ユーザに適用されますので、お客様のご判断にて実施をお願いいたします。※処理が失敗した場合は、送信者にエラー通知メールが送信されます。

1. Exchange Online PowerShell に接続 以下のコマンド実行後にダイアログが立ち上がるので、ID/パスワード等を入力し、Exchange Onlineにログインします。

```
Connect-ExchangeOnline -UserPrincipalName "管理者メールアドレス"
```

2. 宛先数の上限を50に設定
以下のコマンドで全ユーザのRecipientLimitを50に設定します。

```
Get-Mailbox -ResultSize Unlimited | Set-Mailbox -RecipientLimits 50
```

4.4.1.7. リッチテキスト形式の利用制限

本手順を実施した場合、全ユーザに設定が適用されますのでご注意ください。

リッチテキスト形式の利用制限を行います。本設定は必須ではございませんが、リッチテキスト形式でメールを送信した際、添付ファイルがwinmail.datに変換された状態でクリプト便への連携処理が行われる場合が

あるため、本設定の実施を推奨いたします。なお、この設定はExchange Onlineの全ユーザーに適用されますので、お客様のご判断にて実施をお願いいたします。

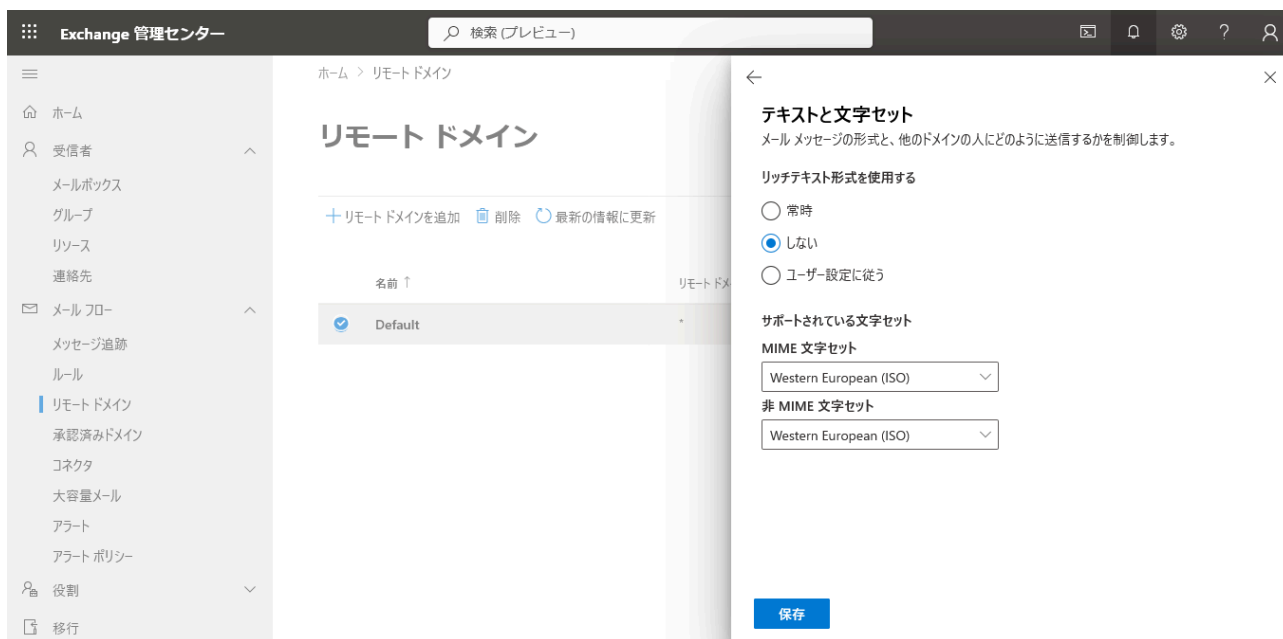
1. Exchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > リモートドメインに遷移し、任意のドメインをクリックします。



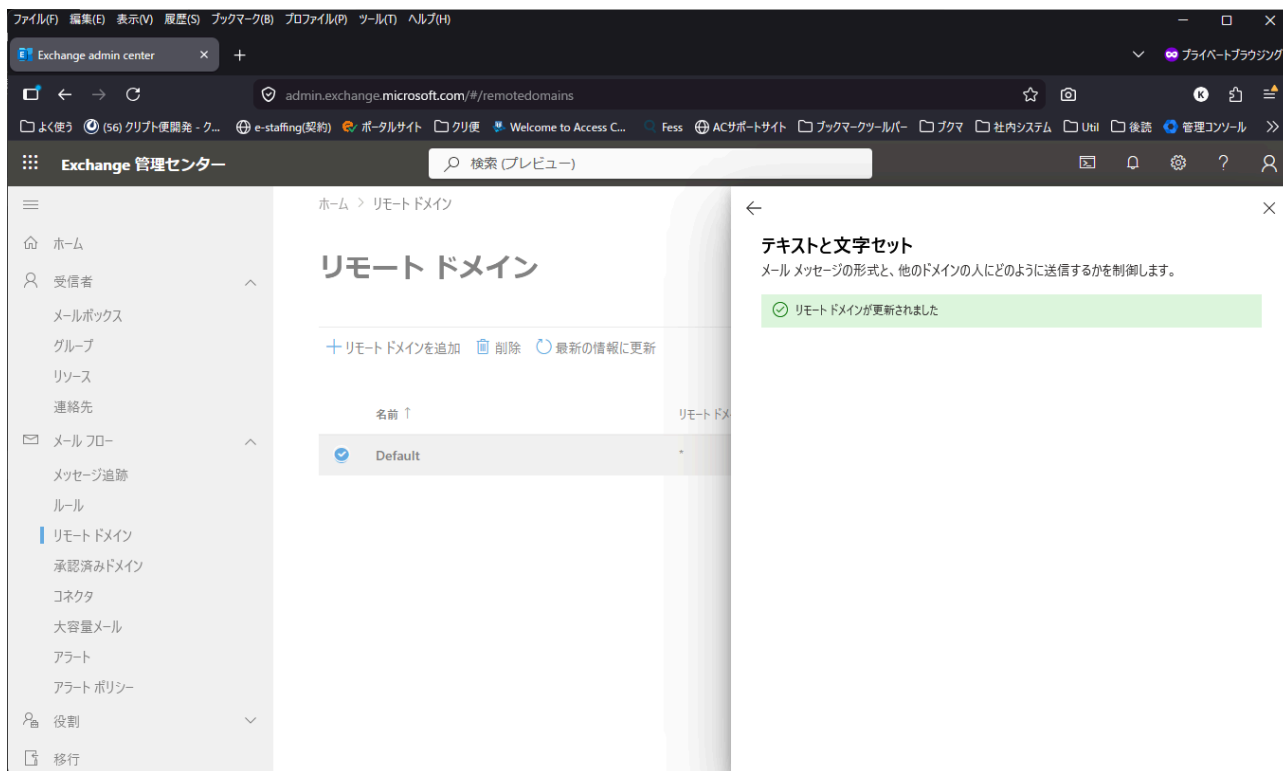
2. 以下の画面より、テキストと文字セットを編集をクリックします。



3. リッチテキスト形式を使用するを「しない」に設定して「保存」します。



4. 下図のように確認画面が表示されましたら設定は完了です。



4.4.2. Google Workspaceを利用している場合の設定例

Google Workspaceをご利用の場合、以下の設定を実施することで本オプションの利用が可能となります。なお、Google Workspaceの設定は数分で反映される場合がほとんどですが、最長で24時間ほどかかる場合があります。

- ホストの作成
メール連携GWへ接続するため、ホストの設定を行います。

- 添付ファイルのコンプライアンスの設定（メール連携の動作確認用の設定）
メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定を行います。
- 迷惑メールの除外設定
メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐための設定を行います。
- 宛先数の制限（任意）
送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。

後述の手順はあくまで設定例となりますので、お客様のGoogle Workspaceのご利用状況により設定内容が異なる場合がございます。

また、本オプションの動作に影響が出ない範囲で任意の設定を実施していただくことも可能です。

4.4.2.1. ホストの作成

メール連携GWへ接続するため、ホストの設定を行います。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから**アプリ** > **Google Workspace** > **Gmail** > **ホスト**にアクセスします。



2. 「ルートを追加」をクリックします。

3. 以下の内容を入力します。

- 名前：任意の名前
- メールサーバの指定：「単一のホスト」を選択
- ホスト名：prod.cryptobin-gw.com
- ポート番号：25

- オプション：すべて選択

メールのルート編集

名前

[詳細](#)

このフィールドは必須です。

1. メールサーバーの指定

番号が 25、587、1024~65535 のポートのみ使用できます。

単一のホスト ▼

ホスト名または IP を

:

2. オプション

- ホストで MX ルックアップを実行する
- メールを送受信時にセキュリティ プロトコルで保護された (TLS) 接続を必須とする (推奨)
 - CA の署名付き証明書を必須とする (推奨)
 - 証明書のホスト名を検証する (推奨)

[TLS 接続をテスト](#)

[キャンセル](#) [保存](#)

4. 「TLS接続をテスト」をクリックし、下図のようにエラーが出力されないことを確認します。

2. オプション

- ホストで MX ルックアップを実行する
- メールの送受信時にセキュリティ プロトコルで保護された (TLS) 接続を必須とする (推奨)
- CA の署名付き証明書を必須とする (推奨)
- 証明書のホスト名を検証する (推奨)

TLS 接続をテスト

2025年4月11日 16:18 に TLS 接続を検証しました

キャンセル 保存

5. 「保存」をクリックします。これによりルートが作成されます。

4.4.2.2. 添付ファイルのコンプライアンスの設定 (メール連携の動作確認用の設定)

メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定を行います。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから [アプリ](#) > [Google Workspace](#) > [Gmail](#) > [コンプライアンス](#) にアクセスします。
2. [組織部門](#) より、設定対象のドメインを選択します。
3. 「添付ファイルのコンプライアンス」セクションの「設定」 (既に別のルールが存在していた場合は、「別のルールを追加」) をクリックします。
4. 以下の内容を入力します。

- [添付ファイルのコンプライアンス]の説明を入力します
例：クリプト便メール連携
- 1.影響を受けるメール：[送信]を選択します
※内部宛て (送信者のアドレスと同ドメイン宛) のメールもクリプト便で送る場合は、[内部 - 送信]も選択します
- 2.各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する：[次の一部がメールに一致する場合]を選択します
- [追加] をクリックし、[設定を追加] ボックスが開きます

- [ファイル形式] を選択します
 - [添付ファイルの種類] で、すべてのチェックボックスを選択します
 - [保存] をクリックします
- 3.上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います：[メッセージを変更]が選択されていることを確認します。
- ルート：[ルートを変更]を選択し、「ホストの作成」で作成したホストを選択します。
- 【参考】添付ファイルのコンプライアンス設定例

設定を編集

添付ファイルのコンプライアンス

[詳細](#)

クリプト便メール連携

1. 影響を受けるメール

- 受信
- 送信
- 内部 - 送信
- 内部 - 受信

2. 各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する

次の一部がメールに一致する場合 ▼

表現
事前定義された添付ファイル形式: 7
カスタムの添付ファイル形式: 0

[追加](#)

設定を編集

3. 上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います

メッセージを変更 ▼

ヘッダー

- X-Gm-Original-To ヘッダーを追加
- X-Gm-Spam ヘッダーと X-Gm-Phishy ヘッダーを追加
- カスタム ヘッダーを追加

件名

- 件名の先頭に追加するカスタム テキスト

ルート

- ルートを変更
 - 迷惑メールのルートも変更する
 - この受信者からのバウンスメールを送信元に送信しない

SESエンドポイント ▼

エンベロープ受信者

キャンセル 保存

- 【参考】 ファイル形式の選択例

設定を編集

ファイル形式 ▼

添付ファイルの種類

Office ドキュメント (.doc, .xls, .ppt...)

- 暗号化されている Office ドキュメント
- 暗号化されていない Office ドキュメント

動画とマルチメディア (.mpg, .mov, .avi...)

音楽とサウンド (.mp3, .wav, .aiff...)

画像 (.jpg, .gif, .png...)

圧縮ファイルとアーカイブ (.zip, .tar, .gz...)

- 暗号化された圧縮ファイルとアーカイブ
- 暗号化されていない圧縮ファイルとアーカイブ

カスタムのファイル形式 - ファイル名の拡張子に基づいてファイルの一致を調べる

txt

- ファイル形式にも基づいてファイルの一致を調べる (サポートされる形式)

注: ユーザー保護のため、すべての実行可能ファイルが自動的に拒否されます。

キャンセル 保存

5. 「オプションを表示」をクリックします。

- C.エンベロープフィルタ：[特定のエンベロープ受信者にのみ適用する]にチェックを入れ、[1個のメールアドレス]を選択します。
- メールアドレス：任意のメールアドレス（※）を入力します。
※動作確認に利用する宛先メールアドレスを入力します。送信者のアドレスと同一ドメインを設定する場合は、前述の「1.影響を受けるメール」を[内部 - 送信]に設定しておく必要があります。
なお、本設定はあくまで一例ですので、お客様のご判断で任意の条件に変更いただくことも可

能です。

設定を追加

- アドレスリストを使用して、この設定を適用するアプリケーションを除外、制御する
 - この設定を特定のアドレスまたはドメインには適用しない
 - この設定を特定のアドレスまたはドメインにのみ適用する

B. 影響を受けるアカウントの種類

- ユーザー
- グループ
- 認識できない、キャッチオール

C. エンベロープ フィルタ

- 特定のエンベロープ送信者にのみ適用する
- 特定のエンベロープ受信者にのみ適用する

1 個のメールアドレス ▼

メールアドレス:

test@testdomain.cryptobin.jp

キャンセル **保存**


6. ここまでの設定内容を確認し、[保存] をクリックします。

7. [ステータス]が[有効]になっていることを確認します。

添付ファイルのコンプライアンス

説明	ステータス	ソース	操作	ID	メッセージ	一覧
SESヘリレー	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	59865	送信	1

[別のルールを追加](#)

 大部分の変更は数分で反映されます。詳細
以前の変更は[監査ログ](#)で確認できます

本設定の条件に合致した添付ファイル付きメールのみ、メール連携GWに連携されます。
前述の設定例の場合、Office ドキュメント、動画とマルチメディア、音楽とサウンド、画像、圧縮ファイルとアーカイブ、カスタムのファイル形式で指定した拡張子のファイルが添付されたメールは、クリプト便に連携されますが、これらの条件に合致しなかった場合はメール連携GWに連携されず、そのまま送信されます。

4.4.2.3. 迷惑メールの除外設定

メール連携GWから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐための設定を行います。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから[アプリ](#) > [Google Workspace](#) > [Gmail](#) > [ルーティング](#) > [アドレスリストの管理](#) にアクセスします。
2. 「アドレスリストを追加」をクリックし、以下のドメインを登録します。
 - ap-northeast-1.amazonses.com

- prod.cryptobin-gw.com

アドレスリストの編集

名前 *

クリプト便メール連携GWメールアドレスドメイン

このフィールドは必須です。

アドレスを検索	
アドレス	認証が必須 (受信メールのみ) 詳細
<input type="text" value="ap-northeast-1.amazonses.com"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="text" value="prod.cryptobin-gw.com"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

[アドレスを一括追加](#) [アドレスを追加](#)

i 大部分の変更は数分で反映されます。 [詳細](#)
以前の変更は [監査ログ](#) で確認できます

[キャンセル](#) [保存](#)

アドレスリストの管理

名前	種類	アドレスの数	操作
クリプト便メール連携GWメールアドレスドメイン	アドレスリスト	2	編集 - 削除

[アドレスリストを追加](#)

名前	種類	アドレスの数	操作
----	----	--------	----

[ブロックするアドレスのリストを追加](#)

3. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから [アプリ](#) > [Google Workspace](#) > [Gmail](#) > [迷惑メール](#)、[フィッシング](#)、[マルウェア](#) にアクセスします。
4. 「迷惑メールのルールを追加」（既に別のルールが存在していた場合は、「別のルールを追加」）をクリックし、以下の設定をチェックし保存します。
 - 送信者が内部ユーザの場合は迷惑メールフィルタを適用しない。
 - 選択したリスト内の送信者またはドメインから受信したメールの場合は迷惑メールフィルタを適用せず、警告も非表示にする（リストは項番2で作成したものを使用）。

設定を編集

迷惑メール

詳細

クリプト便メール連携GWのメールを許可

受信メールはすべて Google の迷惑メールフィルタの適用対象になります。迷惑メールとして検出されたメールは、自動的に迷惑メールフォルダに振り分けられます。

オプション

- 積極的に迷惑メールに分類する。
- 迷惑メールを管理検疫に移動する

Default ▼

フィルタと警告バナーを無視するためのオプション

- 送信者が内部ユーザーの場合は迷惑メールフィルタを適用しない。
- 選択したリスト内の送信者またはドメインから受信したメールの場合は迷惑メールフィルタを適用しない。
リストはまだ使用されていません。
[既存のリストを使用する](#) [リストを作成または編集](#)
- 選択したリスト内の送信者またはドメインから受信したメールの場合は迷惑メールフィルタを適用せず、警告も非表示にする。

クリプト便メール連携GWメールアドレスドメイン (2)

使用しない

[既存のリストを使用する](#) [リストを作成または編集](#)

キャンセル **保存**

迷惑メール

説明	ステータス	ソース	操作	ID	値
クリプト便メール連携GWのメールを許可	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	e815c	迷惑メール内部の送信承認された承認済み迷惑メールを検

[別のルールを追加](#)

4.4.2.4. 宛先数の制限

本手順を実施した場合、全ユーザのメールボックスに設定が適用されますのでご注意ください。

送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。本設定は必須ではございませんが、To、Cc、Bccの宛先数の合計が50件を超えるメールが送信された場合、本オプションによるクリプト便への連携処理が失敗する（※）ため、本設定の実施を推奨いたします。なお、この設定はGoogle Workspaceの全ユーザに適用されますので、お客様のご判断にて実施をお願いいたします。※処理が失敗した場合は、送信者にエラー通知メールが送信されます。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから[アプリ](#) > [Google Workspace](#) > [Gmail](#) > [コンプライアンス](#) にアクセスします。
2. [組織部門](#)より、設定対象のドメインを選択します。
3. 「コンテンツ コンプライアンス」セクションの「設定」（既に別のルールが存在していた場合は、「別のルールを追加」）をクリックします。

コンテンツ コンプライアンス 単語、フレーズ、パターンに基づいた高度なコンテンツ フィルタを設定します。

[設定](#)

 大部分の変更は数分で反映されます。詳細
以前の変更は[監査ログ](#)で確認できます

4. 以下の内容を入力します。
 - [コンテンツ コンプライアンス]の説明を入力します
例：宛先数制限
 - 1.影響を受けるメール：[送信]を選択します
※内部宛て（送信者のアドレスと同ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合は、[内部 - 送信]も選択します
 - 2.各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する：[次のすべてがメールに一致する場合]を選択します
 - [追加] をクリックし、[設定を追加] ボックスが開きます
 - [設定を追加] ボックスの上部にある [高度なコンテンツ マッチ] を選択します
 - [場所] で [受信者のヘッダー] を選択します
 - [一致タイプ] で、[正規表現に一致する] を選択します
 - [正規表現] に「@」を入力します
 - [最小一致数] に「51」を入力します
 - [保存] をクリックします
 - 3.上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います：[メールを拒否] を選択します
 - [拒否通知をカスタマイズ]は、任意で入力してください
例：宛先は50件以下で入力してください。

宛先数制限

1. 影響を受けるメール

- 受信
- 送信
- 内部 - 送信
- 内部 - 受信

2. 各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する

次の一部がメールに一致する場合 ▼

表現
場所: 受信者のヘッダー 正規表現に一致する: @

[追加](#)

3. 上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います

メールを拒否 ▼

拒否通知をカスタマイズ

任意

宛先は100件以内で入力してください。

[オプションを表示](#)

[キャンセル](#) [保存](#)

5. [保存] をクリックし、以下の通り設定が反映されていることを確認します。

コンテンツ コンプライアンス

説明	ステータス	ソース	操作	ID	メッセージ	一致数
宛先数制限	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	38f21	送信	1

[別のルールを追加](#)

 大部分の変更は数分で反映されます。詳細
以前の変更は[監査ログ](#)で確認できます

4.4.3. その他のメールサーバを利用している場合

Exchange Online、Google Workspace以外のメールサーバをご利用の場合でも、以下の設定を実施することで本オプションの利用が可能な場合がございます。

- メール連携GWへのメール転送設定
以下のメール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定をお願いします。
 - ホスト名 : prod.cryptobin-gw.com
 - ポート番号 : 25
- エラー通知メールの受信許可設定
以下のドメインから送信されるエラー通知が迷惑メール判定されることを防ぐための設定をお願いします。
 - ap-northeast-1.amazonses.com
 - prod.cryptobin-gw.com
- 宛先数の制限（任意）
宛先数の合計が50件を超えるメールが送信された場合、本オプションによるクリプト便への連携処理が失敗するため、送信メール1通あたりの宛先数の制限を行います。

設定内容・手順はご利用のメールサーバによって異なるため、ご紹介することができません。
また、サービスや製品の種類によっては本オプションを利用できない場合もございます。

4.5. 動作確認

実際に添付ファイル付きメールを送信し、正常に動作するか確認を行います。

1. 普段ご利用のメールクライアントを利用し、任意の宛先メールアドレス（※）に添付ファイル付きメールを送信します。
※ここまでに設定した動作確認用の宛先メールアドレスを利用します。
2. クリプト便から「送信完了通知」が届いていることをご確認ください。なお、通知メールの到着まで数分程度かかる場合がございます。

<送信完了通知のサンプル>

件名

【クリプト便】メッセージ送信が完了しました

本文

送信ユーザ (yyyyy00000) 様

クリプト便をご利用いただき、誠にありがとうございます。

メッセージの送信が完了しました。

件名 : 会議の資料を送付いたします

お預かり日時 : 2015/08/21 17:28:30

--- ファイル -----

議事録.txt

2015年度予算.ppt

--- 宛先 -----

[To]

example@cryptobin.jp

[Cc]

[Bcc]

*** 注意 ***

このメールは送信専用アドレスから送信しています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

本メールの内容に心当たりがない場合は、
第三者があなたのIDを不正利用している可能性があります。
ログインして、送信履歴をご確認ください。

3. 可能であれば、宛先にクリプト便の「お預かり通知メール」と、ファイル取得用パスワードを含む情報が挿入されたメール本文が届いていることをご確認ください。

<お預かり通知メールのサンプル>

件名

【クリプト便】会議の資料を送付いたします

本文

[★★★]

ゲストユーザ 様

クリプト便をご利用いただき、誠にありがとうございます。

あなた宛にメッセージをお預かりしております。
下記URLよりご確認ください。

<https://cryvia.cryptobin.jp/non.action?cd=xxx>

送信者 : 送信ユーザ (yyyyy00000)
お預かり日時 : 2015/08/21 17:28:30
有効期限 : 2015/09/10

お世話になっております。

会議の際の資料を送付いたします。
お手数お掛けいたしますが、
ご査収の程、よろしくお願い申し上げます。

何卒、よろしくお願い申し上げます。

--- ファイル -----
議事録.txt
2015年度予算.ppt

*** 注意 ***
このメールは送信専用アドレスから送信しています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

[★★★]

<メール本文に挿入される情報のサンプル>

【ご案内】
こちらのメールは、添付ファイルがクリプト便によって送信されています。
添付ファイルを取得する際は、別途届きますクリプト便からの通知メールに記載のURLにアクセスいただき、下記パスワードをご入力ください。

クリプト便ファイルパスワード
z/_i3NhWqs(%~;P

送信者 : gw-user01@cryptobin-mail-test.com
お預かり日時 : 2025/10/16 09:45
件名 : 【クリプト便】【GW】テストメール

4.6. 本番利用開始のための設定

動作確認が完了したら、動作確認用の設定を解除し、本番利用開始のための設定を行います。

本項目の作業実施により、すべての添付ファイル付きメールの送信に影響が出るため、作業実施のタイミングにはご注意ください。

4.6.1. Exchange Onlineを利用している場合の設定例

Exchange Onlineをご利用の場合、以下の設定を実施します。

1. Exchange管理センターのサイドバーから、メールフロー > ルールに遷移し、先ほど作成したトランスポートルールを選択し、[編集]をクリックします。

2. 「セットルールの条件」画面が開いたら設定を下図の通り変更します。

- このルールを適用する：「受信者」、「外部/内部である」、「Outside the organization」を選択（※）します。

※ 「Outside the organization」を選択すると、"NotInOrganization"が設定されます。

なお、内部宛て（送信者のアドレスと同ドメイン宛）のメールもクリプト便で送りたい場合は、同様の手順でトランスポートルールをもう1つ追加し、「セットルールの条件」で「Inside the organization」を選択、それ以外は同様の条件でルールの作成をお願いします。

および

いずれかの添付ファイル	▼	サイズが次の値以上である	▼	🗑️
-------------	---	--------------	---	----

添付ファイルのサイズが次の値以上 '0 B (0 bytes)' ✎

および

送信者	▼	外部/内部である	▼	🗑️
-----	---	----------	---	----

送信者の場所が次の場合 'NotInOrganization' ✎

次を実行します *

メッセージのリダイレクト先	▼	以下のコネクタ	▼	+
---------------	---	---------	---	---

次のコネクタを使用してメッセージをルーティングする '[GW] Prod-SES' ✎

次の場合を除く

1つ選択	▼	1つ選択	▼	+	🗑️
------	---	------	---	---	----

保存

キャンセル

3. 「保存」ボタンを押します。
4. 以下のメッセージが表示されたら「完了」ボタンを押下し、設定作業を完了します。

✔ トランスポートルールが正常に更新されました

4.6.2. Google Workspaceを利用している場合の設定例

Google Workspaceをご利用の場合、以下の設定を実施します。

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから **アプリ** > **Google Workspace** > **Gmail** > **コンプライアンス** にアクセスします。
2. **組織部門**より、設定対象のドメインを選択します。
3. 「添付ファイルのコンプライアンス」セクションから、先ほど設定した項目の「編集」をクリックします。
4. 以下の通り設定を変更します。
 - 1.影響を受けるメール：[内部 - 送信]の選択を解除します。
※内部宛て（送信者のアドレスと同一ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合、[内部 - 送信]は選択したままにします。
5. 「オプションを表示」をクリックします。
 - C.エンベロープフィルタ：[特定のエンベロープ受信者にのみ適用する]のチェックを解除します。
6. ここまでの設定内容を確認し、[保存] をクリックします。
7. [ステータス]が[有効]になっていることを確認します。

添付ファイルのコンプライアンス

説明	ステータス	ソース	操作	ID	メッセージ	一覧
SESヘリレー	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	59865	送信	1

[別のルールを追加](#)

 大部分の変更は数分で反映されます。 [詳細](#)
以前の変更は [監査ログ](#) で確認できます

4.7. 導入作業完了

以上で本オプションの利用に必要な作業はすべて完了です。

導入作業完了後の設定変更の方法等については後述の「ご利用ガイド」を、送信者・受信者における利用方法については別紙の「メール連携オプション ユーザマニュアル」をご確認ください。

5. ご利用ガイド

本章では、本オプションのご利用開始後に発生するさまざまな操作や設定変更、トラブル対応など、必要に応じてご参考いただくための情報や設定手順をまとめております。

5.1. メール連携の仕組みについて

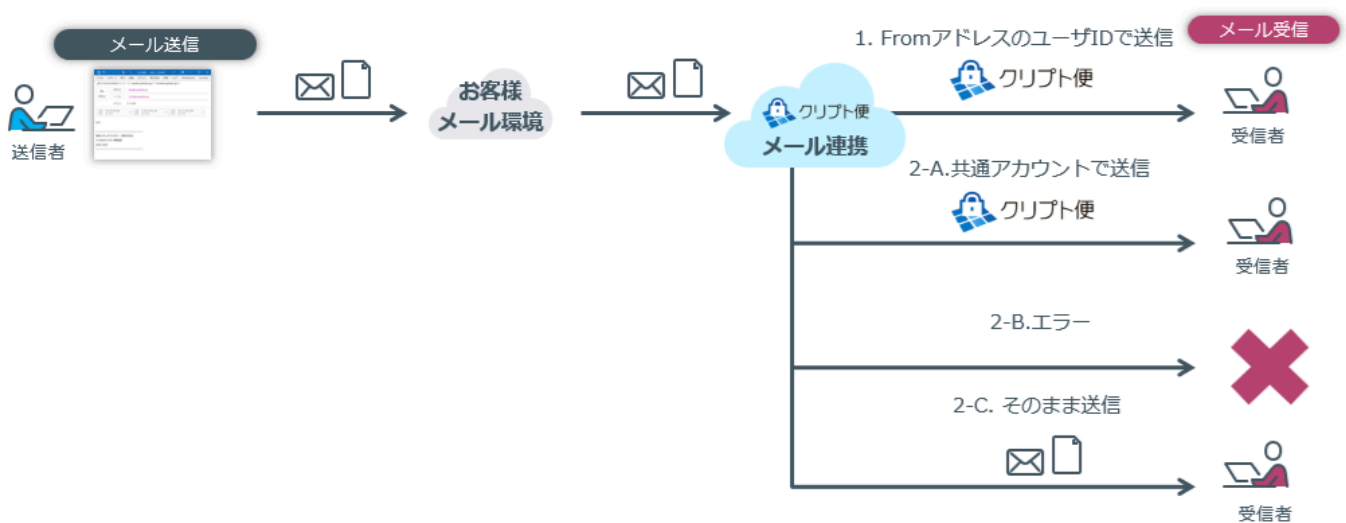
5.1.1. ユーザIDの登録有無によるメール連携処理の変化

クリプト便におけるユーザIDの登録状況によって、処理パターンを変更できます。

なお、ユーザIDの特定には送信者のFromメールアドレスを利用します。

1. 送信者のユーザIDが登録されており、かつメール連携用グループに所属している場合
そのユーザIDが所属するメール連携用グループの送信として処理します。
2. 送信者のユーザIDが登録されていない、またはメール連携用グループに所属していない場合
以下の3パターンのいずれかの処理※を行います。
 - A. メール連携用デフォルトユーザで送信する
 - B. エラーとし、送信しない
 - C. クリプト便連携せずに添付ファイル付きメールをそのまま受信者に送信する

※ヒアリングシートにて指定。すべてのメールに対して一律で適用されます。



5.1.2. 承認機能

ユーザが所属するメール連携用グループの承認設定によって承認要否や承認者を決定します。

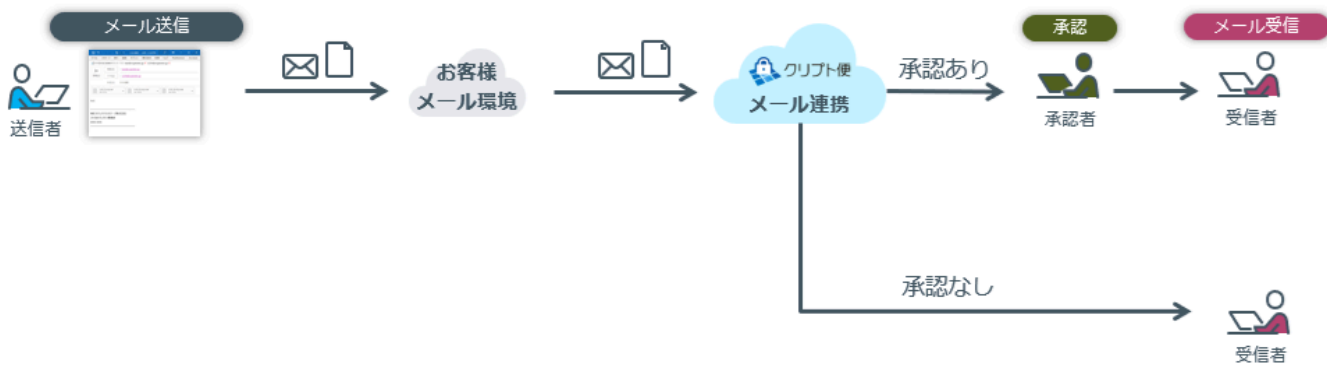
1. 承認ありの場合

メール連携用グループに登録されている承認者が承認を完了次第、クリプト便メッセージが送信されます。

なお、本文メールは承認を待たずに送信されます。

2. 承認なしの場合

メール連携の処理が完了次第、クリプト便メッセージと本文メールが送信されます。



5.2. 特定の条件において添付ファイル付きメールを直接送信する方法

一例ですが、以下の設定を参考にすることで、メール連携GWを経由（クリプト便を利用）せずに、添付ファイル付きメールを直接送信することが可能です。

例) 送信メールの件名に \$\$\$ などの文字列が入力されている場合、添付ファイル付きメールを直接送信する。

5.2.1. Exchange Onlineを利用している場合

Exchange管理センターのサイドバーから、[メールフロー](#) > [ルール](#)に遷移し、本オプションの利用のために設定したトランスポートルールを編集し「次の場合を除く」の設定を追加します。

このルールを適用する *

受信者 +

受信者の場所が次の場合 'NotInOrganization'

および

いずれかの添付ファイル

添付ファイルのサイズが次の値以上 '1 B (1 bytes)'

次を実行します *

メッセージのリダイレクト先

次のコネクタを使用してメッセージをルーティングする '[GW] Test-SES'

次の場合を除く

件名または本文

件名または本文に次のいずれかの単語を含む '\$\$\$'

保存

キャンセル


5.2.2. Google Workspaceを利用している場合

1. Google Workspace管理コンソールのメニューアイコンから [アプリ](#) > [Google Workspace](#) > [Gmail](#) > [コンプライアンス](#) にアクセスします。
2. [組織部門](#) より、設定対象のドメインを選択します。
3. 「コンテンツ コンプライアンス」セクションの「別のルールを追加」をクリックします。

コンテンツ コンプライアンス

説明	ステータス	ソース	操作	ID	メッセージ	一致数
宛先数制限	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	38f21	送信	1

[別のルールを追加](#)

 大部分の変更は数分で反映されます。詳細
以前の変更は [監査ログ](#) で確認できます

4. 以下の内容を入力します。

- [コンテンツ コンプライアンス]の説明を入力します
例：メール連携適用除外

- 1.影響を受けるメール：[送信]を選択します
※内部宛て（送信者のアドレスと同ドメイン宛）のメールもクリプト便で送る場合は、[内部 - 送信]も選択します
- 2.各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する：[次の一部がメールに一致する場合] を選択します
- [追加] をクリックし、[設定を追加] ボックスが開きます
 - [設定を追加] ボックスの上部にある [高度なコンテンツ マッチ] を選択します
 - [場所] で [件名] を選択します
 - [一致タイプ] で、[テキストを含む] を選択します
 - [コンテンツ] に「\$\$\$」を入力します
 - [保存] をクリックします
- 3.上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います：[メッセージを変更]が選択されていることを確認します。

- ルートを [ルートを変更]、「通常のルーティング」を選択します。

設定を編集

コンテンツ コンプライアンス

[詳細](#)

メール連携適用除外

1. 影響を受けるメール

- 受信
- 送信
- 内部 - 送信
- 内部 - 受信

2. 各メッセージで検索するコンテンツを表す表現を追加する

次の一部がメールに一致する場合 ▼

表現
場所: 件名 テキストを含む: \$\$\$

[追加](#)

3. 上記の表現が一致する場合は、次の処理を行います

メッセージを変更 ▼

ヘッダー

- X-Gm-Original-To ヘッダーを追加
- X-Gm-Spam ヘッダーと X-Gm-Phishy ヘッダーを追加
- カスタム ヘッダーを追加

件名

- 件名の先頭に追加するカスタム テキスト

ルート

- ルートを変更
 - 迷惑メールのルートも変更する
 - この受信者からのバウンスメールを送信元に送信しない

通常のルーティング ▼

エンベロープ受信者

キャンセル 保存

5. [保存] をクリックし、以下の通り設定が反映されていることを確認します。

コンテンツ コンプライアンス

説明	ステータス	ソース	操作	ID	メッセージ
宛先数制限	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	a5035	送信
メール連携適用除外	有効	ローカルに適用しました	編集 - 無効にする - 削除	f39a8	送信

[別のルールを追加](#)

5.3. クリプト便やメール連携GWでメンテナンスや障害が発生している場合の対応について

クリプト便やメール連携GWでメンテナンスや障害が発生し、本オプションを利用できない状態となっている場合、以下の作業を実施することで本オプションの利用を一時的に停止することが可能です。

なお、本対応の実施は任意となっておりますので、お客様のご判断にて実施をお願いいたします。

5.3.1. Exchange Onlineを利用している場合

1. 管理者アカウントで Exchange 管理センター にサインインします。
2. 左側メニュー **メールフロー** → **ルール** をクリックします。
3. 一覧より、メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定（ルール）を選びます。
4. メニュー上部またはルール行の「その他の操作」ボタン（…や「アクション」）から「無効にする（Disable）」を選択します。 ※障害が復旧し、再度ルールを有効化したい場合は、同様の手順で「有効にする（Enable）」を選択すれば元に戻ります。

5.3.2. Google Workspaceを利用している場合

1. 管理コンソールにログイン
2. **アプリ** → **Google Workspace** → **Gmail** → **コンプライアンス** にアクセスします。
3. **組織部門** より、設定対象のドメインを選択します。
4. 「添付ファイルのコンプライアンス」より、メール連携GWへ添付ファイル付きメールを連携するための設定（ルール）を探します。
5. 当該設定の行に表示されている「無効にする」をクリックします。
6. 「ルールの操作の確認」が表示されますので、「続行」をクリックします。
7. 当該設定の行のステータスが[無効]になっていることを確認します。 ※障害が復旧し、再度ルーティングを有効化したい場合は、同様の手順でステータスを「有効」にすれば元に戻ります。

5.4. 送信の取消について

以下の方法で送信取消を行うことが可能です。

5.4.1. 送信BOXから行う方法

送信を行ったユーザのアカウントでクリプト便の一般ユーザ画面にログインし、送信取消を行うことが可能です。

[送信済みメッセージを取り消す](#)

5.4.2. セクション管理者機能を利用する方法

セクション管理者画面にログインし、送信取消を行うことが可能です。

[送信されたメッセージを取り消す](#)

5.5. メール連携オプションの解約について

本オプションの解約を希望される場合は、クリプト便ヘルプデスクへご連絡ください。

また、お客様にて以下の手順による作業が必要となりますので、任意のタイミングで実施をお願いいたします。

「クラウドサービス・ソフトウェアの設定削除」を実施した時点で、本オプションは機能しない状態となります。作業の際は、十分注意して実施をお願いいたします。

1. クラウドサービス・ソフトウェアの設定削除

◦ Exchange Onlineを利用している場合

1. コネクタの削除

本オプションのために作成したコネクタを削除します。

2. ルールの削除

本オプションのために作成したルールを削除します。

3. 宛先数の制限の解除

送信メール1通あたりの宛先数の制限を解除します。 ※本手順の実施には、ExchangeOnlineManagementのインストール・インポートが必要です。

4. Exchange Online PowerShell に接続

以下のコマンド実行後にダイアログが立ち上がるので、ID/パスワード等を入力し、Exchange Onlineにログインします。

```
Connect-ExchangeOnline -UserPrincipalName "管理者メールアドレス"
```

5. 宛先数の上限を500に設定

以下のコマンドで全ユーザのRecipientLimitを500（デフォルト値）に設定します。
※全ユーザのメールボックスに設定が適用されますのでご注意ください。

```
Get-Mailbox -ResultSize Unlimited | Set-Mailbox -RecipientLimits 500
```

◦ Google Workspaceを利用している場合

1. ホストの削除

本オプションのために作成したホストを削除します。

2. ルーティングの削除
本オプションのために作成したルーティングを削除します。
3. 添付ファイルのコンプライアンスの設定の削除
本オプションのために作成した添付ファイルのコンプライアンスを削除します。
4. 宛先数の制限の削除
本オプションのために作成したコンテンツコンプライアンスを削除します。

2. メール連携用グループ・ユーザの削除
メール連携用グループ・ユーザを削除します。

3. DNSレコードの削除
本オプションのために登録した、送信ドメイン認証（SPF、DKIM）に関するDNSレコードを削除します。

<削除対象レコードの例>

設定箇所	削除対象の設定例
MXレコード	<お客様指定のドメイン>. IN MX 10 feedback-smtp.ap-northeast-1.amazonses.com.
TXTレコード	<お客様指定のドメイン>. IN TXT "v=spf1 include:amazonses.com ~all"
DKIMレコード①	xxxxx._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード②	yyyyy._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.
DKIMレコード③	zzzzz._domainkey.<お客様指定のドメイン>. IN CNAME aaaaa.dkim.amazonses.com.